



上野総合市民病院だより

◆上野総合市民病院での乳腺疾患の診療について

乳がんは、乳腺疾患の中で、女性の罹患率が最も高いがんであり、女性の9人に1人が発症するとされています。また、若年者から高齢者まで幅広い年代で発症するがんでもあります。

乳がんの診断には視診や触診を行います。小さながんや乳房の深くに存在するがんは、それだけでは発見できないことがあります。このため、当院では乳がんの画像診断に力を入れています。令和4年にマンモグラフィ装置を更新し、令和5年にはCT装置をAI搭載モデルに更新しています。また、MRI検査では、DWIBS（ドゥイブス）と呼ばれる全身の検査に加え、乳房を細かく検査する方法も行っています。MRI検査は放射線被ばくすることなく全身を調べることができるため、安心して検査を受けていただけます。

加えて、乳がんを含む乳腺疾患は女性に多い疾患のため、マンモグラフィ検査時には女性の診療放射

線技師が対応するなどの配慮を行っているほか、女性の乳腺外科医が常勤医として勤務しています。

乳腺疾患について、医療スタッフが連携し、患者さんに寄り添いながら診療を行っていますので、ぜひ安心して当院をご利用ください。

（診療放射線技師 善財 彩水）



明日に向かって～差別をなくしていくために～

太鼓にみる職人たちの息遣い —文化財課—

上野天神祭のダンジリ行事や獅子舞といった民俗文化財、伝統行事に欠かせないのが笛や鉦、太鼓といった和楽器です。とりわけ、軽妙に、時には低く響き渡る太鼓の音は、祭りや行事に欠かせないものです。

専門の職人により作られる和太鼓には、太鼓の縁や内側に、製作した職人や修理を担当した職人の名が記されることがあります。たとえば、上野天神祭のだんじり巡行の際に奏でお囃子に使われる上野東町の太鼓の縁には、嘉永5（1852）年の年号とともに、製作または修理に関わった「下郡村太鼓屋文七」の名が墨書されています。

また、年3回獅子舞が奉納される敢国神社では、獅子舞で使う太鼓を修理したところ、胴の内側に天保5（1834）年、明治2（1869）年、明治10（1877）年、明治14（1881）年の年号とともに「井

筒屋□□嘉兵衛」「下郡村太こや文□」（□は不明部分）といった名前が記されていることもわかりました。現在も使われている太鼓が約200年前のもので、いく度か皮を張り替えて使われたことがうかがえます。

また、太鼓は時を告げる道具としても使われていました。伊賀上野城には現在の時報に当たる「時の太鼓」を納めた太鼓櫓もありました。時の太鼓は、武士や城下町の人びとに時を知らせる役割を果たしていました。この太鼓の修理を行っていたのも、当時の下郡村や浅宇田村の職人たちであったことが記録からわかっています。

そして現在、私たちの社会は、さまざまな人びと、さまざまな職業で成り立っています。日常の生活は、お互いに支えあっていることを、感謝の気持ちとともに改めてかみしめたいものです。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



伊賀市の文化財 161

波多岐神社本殿 附棟札15枚（土橋）

伊賀市土橋にある波多岐神社は、オオササギノミコト（仁徳天皇）を祭神とする神社で、「一の宮」の敢国神社（一之宮）と「二の宮」の小宮神社（服部町）とともに「三の宮」とされており、平安時代の『延喜式』神名帳に「波太伎神社」と記載があります。

本殿は、境内地北側の玉垣内中央北寄りにあり、木造一間社流造（正面2.13m、側面1.83m）、屋根は銅板葺きです。神社には本殿に関わる棟札が15枚保管されており、最も古い棟札として慶長9（1604）年銘のものが2枚、続いて明暦2（1656）年や元禄8（1695）年、それ以降の江戸時代のももの残されています。

本殿下部や高欄の部材が平成7（1995）年の修理で新しい材に替えられましたが、柱や梁、壁板などの主な部材は古材と考えられます。部材の細部を見ると梁には簡素な文様が残し、蟬股や部材端部の木鼻などの部材に見られる彫刻は、部位によって形が異なり、変化に富んでいます。また、部分的に残る彩色からは華麗に装飾された本殿の様子をうかがう

ことができます。

波多岐神社本殿は、部材に施された絵様や彫刻、棟札などから江戸時代前期の姿を今に伝える神社建築であり、地域の人々と本殿の関わりを伝える附棟札15枚とともに、貴重な文化財として令和7年3月24日に市指定有形文化財（建造物）に指定されました。

文化財課 ☎ 22-9678 FAX 22-9667



▲波多岐神社本殿



「イガプロ」とは、「イガ」と「プロダクト（製品）」、「プロフェッショナル（専門家）」などさまざまな「プロ」を掛け合わせた造語です。

Canon 上野キヤノンマテリアル株式会社

当社は、複合機やプリンタ用トナーの製造・充填・梱包・出荷までを一貫して行っています。高画質なキヤノン製プリンタの世界シェアは非常に高く、当社のトナー生産量は業界トップクラスを誇ります。さまざまな事業活動の中で「印刷」は訴求力を支える重要なファクターです。印刷に必要なトナーを欠かすことなく安定供給し続けることが当社の使命です。

◆商品ポイント

トナーとは、絵や文字を印刷するために必要な色の元である「tone：色調」に由来し、シアン・マゼンタ・イエロー・ブラックの4色で構成されています。

大量印刷が求められるオフィス用複合機や商業用途に使用される業務用プリンタの消耗品を製造しており、低ランニングコストで高画質な印刷品質を実現できる製品を提供しています。ぜひ一度お試しください。

はじめまして。私は、人事課の前田友也と申します。当社は、キヤノンの子会社としてトナーの製造から出荷までを行っており、社員一丸となって日々



【CSR活動】キヤノンジュニアフォトグラファーズ

業務に取り組んでいます。若いメンバーが製造を支えていて、和気あいあいとした職場となっています。会社見学会や地域活動などを積極的に行っていますので、当社名を見かけた際には、「トナーを製造している会社」と思い出していただけると幸いです。



【製品一部紹介】 トナーカートリッジ

◆会社概要

【所在地】 伊賀市三田字東大町 410-7

【設立】 1981年 設立／操業開始
キヤノン(株)上野工場

2002年 分社独立
上野キヤノンマテリアル(株)

【従業員】 404名 ※2025年1月時点

【事業概要】 複合機・プリンタ用の消耗品
トナーの製造・出荷

【連絡先】 ☎ 24-3111（代表）
FAX 24-2841



<https://ueno.canon/>

問 商工労働課 企業誘致推進室 ☎ 22-9727 FAX 22-9695